

## 部長挨拶

第57回早慶バドミントン大会が3月5日、早稲田大学記念会堂において開催される運びとなりました。お慶び申し上げますと共に、平素より早慶バドミントン部のために、ご指導ご支援を戴いております。諸先輩をはじめ、監督、コーチ等々のスタッフ各位に心より礼申し上げます。



早慶戦ではこれまで慣例として、両協会を交互に選んで開催してきましたが、昨年は早稲田の事情によって、2年連続して日吉記念館において行われました。そしてまた、ちょうどこの年に記念館の改築が話題になり、記念館最後の早慶戦を行うことができただけ、ありがたいことと喜んでいます。昨年の部長挨拶では、日吉記念館の改築について触れて「計画では2010年竣工とのことですから、可能であれば、落成記念の趣向を凝らして、早慶戦の日程を調整したい」と述べましたが、現時点では懸念からまだ詳細が公表されておりませんので、記念館落成の行事については改めて検討することになります。

さて、今年度は関部長の御推察のとおり、昨年のオリンピックの影響によるので、入部者が例年より増えました。現在の部員は総数42名、内訳は以下の通りになっております。4年12名(男子8、女子4)、3年8名(男子6、女子2)、2年10名(男子6、女子4)、1年13名(男子6、女子6)となっております。総じてバランスのよい構成となっているように思われます。部員たちは各自レベルに応じた練習を熱心に積んで来ており、今後が楽しみです。しばしば言われるように、早慶戦にはリーグ戦とはまた違った独特の雰囲気があります。そうした中に身をおいて、じっくり味わうことも、早慶戦ならではの醍醐味に他なりません。部員諸君には勝敗はもとより、バドミントンの楽しさ、厳しさといったものを存分に味わい、体得し、早慶戦ならではの良き伝統を継承して戴きたいと願っております。

## 会長挨拶

三田バドミントンクラブ会長 小杉良雄



皆さん、こんにちは。地球温暖化の影響なのか、エルニーニョの故なのかどうか判りませんが今年も天候不順が続きました。でもバドミントンの場合はインドアですからその点は心配が少なく済みます。

さて、年を重ねると一年がやたらに速く、もう早慶戦が来たかという感じがです。現役の学生諸君が真剣に且楽しみに行っている本定期戦ですが今年で第57回目、早稲田の杜での開催となります。早稲田さんとの間には1部と3部という歴然たる力の差はありますが、伝統を担った好敵手同士は総力戦ですから、先ずは何か良いことが起こることを期待したいと思います。先日「慶応SPIRIT」誌N05.の中で、「スポーツの目的は、勝利することにある。だがスポーツの価値は、勝敗を超えたところにある。」という含蓄

ある言葉に接しました。その氣を胸に、両校共勝つことを目標に全力でゲームに取り組んで下さい。今年も塾では新入部員12名が加わり、昨年を超える総勢42名(男子26、女子16)という嬉しい大所帯、更なる数のパワーが生まれて来ています。42名が一つになって、フルセットの末の粘り勝ち、若い、熱い、ひたむきな応援等々大いに感動させてくれる場面が見られることを期待しています。行け 行け 慶応! (先に掛け声を掛けます。) 結果、勝つにせよ、敗れるにせよ、勝敗を超えたものをお互いが共有できれば、それはそれでまた素晴らしいことではありませんか。本人は勿論、観戦に足を運んで頂いた人々にとっても忘れがたい思い出が生まれるようになります。何よりもその後しばらく……酒の肴として美味しいお酒が飲めますから。特に4年生の諸君にとっては「最後の早慶戦」、体調を整えないの無い試合をして下さい。また新入部員の皆さんはこの独特の雰囲気の大いに味わって下さい。では、両校選手のスポンツァンツァに則った健闘と本日ご参集いただいたOB/OGの皆さんのご健勝を心よりお祈りします。

## 部長挨拶

早稲田大学バドミントン部部长 関 一誠



第57回早慶バドミントン定期戦の開催おめでとうございます。近年、各大学のバドミントン部ホームペー ジがかなり充実し、居ながらにして他大の歴史や現役部員のプロフィールなど細部にわたった情報を得ることが容易となりました。早慶のホームペー ジからも、伝統ある早慶戦について、両校が持つこの定期戦に懸ける並々ならぬ闘志と情熱を汲み取ることができません。

私も、早稲田バドミントン部は、慶応バドミントン部より11年遅れた昭和27年4月(1952年)に誕生しました。その翌年には第一回早慶戦が開催されています。ときの慶応は飛ぶ鳥を落とす勢いで、自他共に認める日本バドミントン界のリーダ的存在でした。

そのような慶応にご教示いただけただけのこと、早慶戦という素晴らしい舞台が用意されていたことから少しずつチームとして成長することができました。

定期戦では11年という永きに渡って勝利することができず、慶応に恩返しすることも叶いませんでしたが、12年目にして初めて目的が達成され、やっと早稲田も一人前に成れたのだと感じました。この早慶戦によって育てられたことで、今日の早稲田があることに感謝しております。

現在対戦成績で、少しのリードをさせて頂いておりますが、果てしなく続くであろう早慶戦は何時逆転されるかわからないことでも現実なのです。

しかし、それも、両校にとっては輝かしい一ページになりましょう。両校そろって、日本のバドミントン界をリードすることが最良の事と考えるからです。

出場機会は1度しかないかもしれない、最大でも4度ではない早慶戦。一人ひとりの懸命さが伝統を築き上げていくことに変わりません。本年の早慶戦、両校の精一杯のがんばりを期待してまいります。

## 会長挨拶

稲門バドミントンクラブ会長 橋本太郎

早慶バドミントン定期戦は、一昨年、昨年と例外的に二年連続して大吉において開催されましたが、本年は三年ぶりに早稲田の記念会堂での開催となりました。主催校OBとして、慶応義塾大学の皆様を心より歓迎させて頂くとともに充実した大会となるよう、努力させて頂きたいと存じます。

おかげさまで、現在早稲田大学男子は18連勝、女子は8連勝中でありますが、本年の慶応義塾大学は部員42名を擁し、厳しい練習を積み重ねかなり手ごわいと聞き及んでおります。

両校選手諸君には、それぞれ母校の名誉をかけ、伝統の早慶戦らしく勝っても負けでも悔いのない戦いをして頂くよう期待しております。とりわけ4年生の諸君には、学生生活最後の早慶戦となりますので、思い出に残る1日となるよう、試合に、応援に全力投球してもらいたいと思います。

この大会を機に両校バドミントン部のさらなる発展と選手諸君の飛躍を心より願って止みません。

最後に、本年より「現役・OB会の広報活動を充実する」との方針のもと、ホームページを一新いたしました。ご一見賜れば幸いです。

(<http://waseda-bad.com/index.php>)



慶應義塾大学 経済学部 昭和29年卒

## 朝倉康夫

昭和25年（1950年）塾入学は何時の間にか半世紀を超える昔のこととなった。思い出おこせば二年間通った日吉の丘には米軍が使用していたカマボコ兵舎が建ち並びそれが吾々新入生を迎え入れてくれた。なんとなく戦後の暗い社会の雰囲気か漂っている様に感じられた。一方慶大生として初めて参加した春の野球早慶戦は、生まれて初めてとも思える強烈な感激を全身に漲らせる大イブントであった。正に「若き血」が燃え上る一瞬を体感するものであった。

入学后加入したバドミントン部は塾内対抗競技部に所属しクラブ的雰囲気か漂う運動部であったが戦後他に先行して活動を開始した有利性もあって他大学チームを寄せつけぬ実力を誇っていた。抜群の競技成績を高く評価され、昭和25年には体育会加盟が認められ新しいスタートを切ることになった。一方各大学では勝者慶志を格好の対抗目標として意識する空気が序々に高まり塾の常勝ベースに危険信号が点灯する様になって来た。見方をかえれば各校の実力が均衡して来たが故の事態であった。

早稲田は大学リーグ加盟が遅かったためリーグ戦での両校対戦は当分見込めない状況にあった。このため両校の対戦は関東学生連盟と切りはなし早慶二校間だけの定期戦として設定することとなった。定期戦設定の諸段取りは磯見フネジャー（故人）、三枝幹事（当時学連委員長）両君が担当し早大側の快諾を得て第1回定期戦を昭和28年5月10日神田国民体育館（当時ナショナルジムと呼ばれた）で開催、目度度く早慶戦の第一歩を印すことが出来た。第1回定期戦の戦責はK14W1と一方的な結果ではあったが之は当時の両校のチーム力からすれば予想通りと言へるものであった。むしろ勝敗にこだわらず将来を見すえて第一回をスタートさせた早大の意気込み、1ボイントをもたらした菊地選手の大奮斗振りには第一回定期戦に花を添えたものとして記憶に新しい。又試合後両校幹部で無事定期戦をスタートさせた芳をねぎらい合い懇親の杯を交わしたことはつい昨日のことの様に思い出されてなつかしい。

KEIO

慶早戦  
寄せて

WASEDA

慶應義塾大学 文学部 昭和49年卒  
金子 寛

本日は、第57回慶早定期戦開催おめでとうございます。卒業し36年が経過しました。OB戦には何回か参加させていただき現役の皆さんの活躍の様子を知り、旧交を温めることができましたが、その後長年ご無沙汰で申し訳なく残念です。

現役時代は部長の平先生、岡本圭・吉田格磨・宮永武司監督の3代にわたり大変お世話になるとともに、ご迷惑もたくさんおかけしました。一つ上は主将鈴木英夫・宮崎博・大矢（今井）立子・金岡（小池）敏子先輩・野口（堀切）佐紀子先輩、またすぐ下時は中田明・峰村和幸君の二人だけで、大変お世話になりました。今考えるには特にお世話になりました。同期はエースの上野利三・那波立朗・佐藤芳朗・酒井素樹・沢谷滋子の6人、個性豊かな楽しいメンバーです。3年時創部40周年記念行事にあたり、以来歌い継がれている部歌「我等の誓い」は上野君、「勝利を誓わん」は酒井君の作詞によるもので、作曲は小森昭宏氏で特に吉田格磨監督のご尽力で生まれたものです。その酒井君は「からくりTV」で皆さんご存知、ヒゲの“替え歌おじさん”でも活躍中です。

思い浮かぶ事は沢山あります。トレーニングでは記念館前の银杏並木の坂道ダッシュ、陸上競技場での恐怖のウサギ跳び、何週の課題かは忘れましたが、宮崎博先輩は正にウサギ跳びの名手でした（「ウサギの宮崎」と我々は密かに呼んでいました）。ランニングでは、下田コーエと綱島コーエがあり、途中の神社で一休み出来るのが楽しみでした。記念館前のダッシュでは、風上の古澤先輩が風下の我々の返事が「聞こえたらスタートしろ」という声出したの練習も懐かしいものです。合宿や勤め帰りに度々記念館に立ち寄りご指導いただいた諸先輩、有難いことです。几帳面で緻密の中村一朗先輩から主務を引継ぎ能力のない私は多面にわたって迷惑をかけ恥ずかしい限りでした。そんな中、伊丹昭先輩がOB通信の編集など多大な援助・ご指導をいただきました。それまで競技経験のなかった私は、沢山の先輩・後輩に支えられ慶志での部活動が私の原点であり、感謝すべきことは語り尽くせない程あります。高校の現場でバドミントンに関わることが出来たのは、早慶の部関係者にお世話になったお蔭です。地元山梨県に戻り32年、高体連や協会のお手伝いもさせていただいています。来春3月の退職を前に、寂しいような待ち遠しいような心境です。

結びに、本定期戦が成功裡に開催されますことと、現役諸君の益々の活躍と両部の一層の発展をお祈り致します。

早稲田大学 教育学部 昭和62年卒

## 荒井 望

この寄稿の依頼を私が大学を卒業した年に生まれたという4年の丁塚さんから頂いた。社会人となり、学生生活に終止符を打つまでと同じ期間を過ごしたことになる。  
OBになつてからの早慶戦の戦績は芳しくないが、学生時代は(確か)2年生の時に出了たダブルスで佐藤さん・服部さんペアに負けた以外は幸運にも勝たせてもらっていると思う。

最近、若い頃の記憶が段々臆気になって行っているが、今でもはつきり覚えているのは以下の私が1年生の時の4年生の度胸の据わり方に因する記憶だ。  
1年生の私は、翌日に控えた早慶戦を極めて重大な行事であるという認識に立ち十分睡眠を取る様心にかけていたのだが、緊張感からか気がばかりが焦り、逆に中々寝付かれず当日の早慶戦を迎えることになった。そんな中、当日の会場で試合前に当時の4年生のKさんとYさんが当時人気を博していた女子大生がキャスターを務める深夜番組を最後まで観て床に就き、試合に臨んだという話をしているのを聞いた。おそらく番組の終了は、明け方の4時とか5時ではなかったろうか。

いやあ、関東1部リーグの4年生とはやはりすいものだとその時は感心したが私が4年生になったときには残念ながらそのような豪胆さは持ち得なかった。  
もう1つの思い出。確か1年生の冬、旗の台にある女子高に指導に行くはずだった湯木博恵(現姓:新沼、若い人の為に:全英選手権シングルス4度優勝している。 - Wikipediaによる)さんが急に所用で行かれなくなり、「荒井、お前代わりに行ってくれ。」と今井コーイチ(当時、現監督)からの命を受け、代わりが私に務まるのかと思いつつ行ったことがある。その時に快く私を迎えてくれたのがY先生(何故にYとするのか。大変失礼ながら記憶が曖昧でお名前は吉であったと思うが吉玉かも知れず、たしか以前の早慶戦のダブルスの寄稿にこの方のお名前をどなたが書いておられたかと思うのだが…。ご存知の方はご教示下さい。)だった。高校生の指導の後にY先生としばし歓談させて頂いたのだが、Y先生はその人柄が仏様のような方だと少し話だけでも分かるような方だった。その時は若い人がカサバミンソンをする効用を熱心に説いておられ、特に雨の日でも若い人が身体を動かせる点を詳説されていたと記憶している。  
その後、私が上級生になりY先生が早慶戦の応援に来てくれたことがあった。シングルスでの試合中に盛んに拍手してくれるのが聞こえ、見るとY先生であった。私のようなお顔で私の応援をしてくれていた。試合後、挨拶に行くとY先生から「荒井さん、立派になられて…。」というお言葉を頂いた。私は褒め言葉に弱い。このとき、バドミントンを続けてきて良かったと思つた。

WASEDA

早慶戦  
寄せて

KEIO

早稲田大学 社会科学部 平成21年卒

## 大芝 純輝

第57回早慶バドミントン定期戦の開催、おめでとうございます。本年も伝統のあるこの定期戦で、両大学による熱い戦いが繰り広げられることを、心よりお祝い申し上げます。

一年前の早慶戦はまるで昨日のごとく、この様に、早慶戦に寄稿することになり、またあの熱戦が臉の下に蘇ってきます。私にとつて早慶戦に出場し、一勝を得ることが4年間での最大の目標でした。早稲田のほとんどの部員が全国で実績のある選手の中で何の実績もない一般入学組の私とその目標を達成することは困難でしたが、4年生にしてようやく初出場を果たすことができました。

いざ試合に臨んでみると他の試合とは、まったく雰囲気が違うことに驚きました。盛大な両校の応援、大勢のOB・OGを背にしたの試合は緊張感あふれるものでした。そのような中、慶應に負けまいという気持ちで、必死でシャトルを追いかけて、試合をできたことは、私にとって最高の喜びでした。今でも、時々あの感覚が呼び起こされます。川口君とのダブルスで前田くん中嶋くんとのフラインガルまでもつれた熱戦は今でも私に熱い気持ち思い返させてくれます。

ぜひ現役の皆さんは、早慶戦独特の雰囲気の中で、試合をできる喜びを感じ取りながら、最高のプレーを、自分のため、そして各々の母校のためにして下さい。全力で両大学がぶつかりあうのを楽しみにしております。

そしてやはり早稲田一般入学組にとつては慶應のほとんどの選手とは全国に実績を残したわけではないという点で大学に入ったスタート地点は同じであり、入部してからの頑張りを競いあえるライバルと言える存在です。そのためお互い早慶戦に賭ける思いはなみなみならぬものがあります。そのため試合をご覧になる皆さんには是非早稲田一般入学組の今年で引退となる小松君や去年のリベンジに燃える西本君の試合に注目して見て下さい。

4年生にとつては大学での引退試合となり最後の大会です。4年間の想いをこの早慶戦にぶつけてください。その姿はきっと3年生以下後輩たちの記憶に残りたい想いは受け継がれていくと思います。試合に出る人も出ない人もみんな挑み57回で最高の早慶戦になることを期待しています。

最後になりましたが、この定期戦を開催、運営するにあたり、ご苦勞をなされた部長、監督、コーチ、諸先輩、主務、副務、諸関係者の皆様方に厚くお礼を申し上げます。両大学のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

H21年卒業、そして前年度主将を務めました光井翔です。

今年もまた、伝統ある早慶戦が無事開催されましたことを大変嬉しく思っております。現役時代の思い、出は数えきれませんが、特に、早慶戦は強烈に印象に残っております。会場の空気、大勢のギャラリー、そして何より、見たこともないくらい強い目の前の相手、早稲田は、大学一年生であつた自分にとって早慶戦を特別な場所とすることを十分すぎるものでした。

現在、早稲田と慶応の力には差があることを認めざるを得ません。一部リーグのトッププレイヤーと三部りの力の差はやはり大きいものがあります。しかし、我々は強い意志を持って挑戦を繰り返してきました。力を考え、自分たちができることを認めざるを得なく、自分たちには何が足りないのか、勝つためには何が必要なのかを考えた。自分たちができることを一年間かけて取り組み続けます。そして、毎年それを愚直に繰り返し、思いや成果の詰まったタスキをまた次の代へとつないでいく。

これが今の我々慶応義塾体育会ノボリメント部であり、この流れは脈々と受け継がれています。この積み重ねが徐々に大きな力となりつつあることを当事者の一人として感じずにはいられません。

そして今年も、渋谷主将を中心とした四年生が一年間チームを牽引し、打倒早稲田に向け、厳しく練習に取り組み続けてきました。その様子はこの一年間を通して大きく変化を遂げたと感じております。渋谷の気迫、四年生の気迫は、この一年間、含うたひりに増していきました。チームを引っ張る者として頼もしくなっていく彼らに呼応するようにチーム全体がまとまり、一枚岩になつていく様を数回練習に顔を出すなかで垣間見ることができました。この一年間、部員数も増え、練習面だけでなく運営面でも大変なことが多かったと思います。強い自覚と責任感を持ってチームを引っ張ってくれたことを嬉しく感じています。最後の見せ場、チーム皆を巻き込んで、大きな力を生み出してくれるでしょう！今の彼らの姿を見ていると、そんな期待をせずにはいられません。

現役諸君、舞台は整いました。

最後まで頭はクリアーに、心は熱く、思いっきり戦ってください！この一年間で積み上げてきた力をしっかりと出してください！早慶両選手たちが、己のすべてをぶつけあう様が見れることを心より期待しております。最高の大会にしましょう！

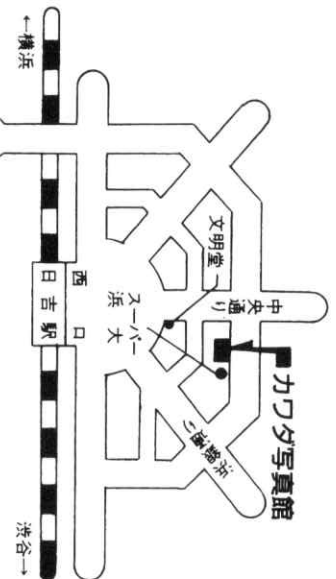
そして欲を言えば、必死で食らいつく慶応の選手の死にも狂いの顔と、焦る早稲田の選手の冷や汗顔を見たいものです。いや、数多くのそういった場面を期待します。

最後に、慶応ノボリメント部OBとして言わせてください。慶応、もともと頑張れ！



- 卒業記念写真
- 出張記念写真

- 各種証明写真
- 就職用写真



## カワダ写真館

〒223 横浜市港北区日吉本町 1-2-7

Tel 045(562)3668(スタジオ)

045(562)3667(自宅)

営業時間 午前10時～午後6時

早稲田大学 スポーツ学部 平成21年卒 (前年度主将)

川口 謙太郎

伝統ある早慶バドミントン定期戦が、今年もまた無事例年通り開催されることを心より嬉しく思います。早いもので昨年の早慶戦から一年が経ちました。当時の後輩たちが先輩として今のチームを率いている姿を想像すると非常に頼もしく感じられます。両校ともに4年生を中心に一気団結し、早慶戦にふさわしい白熱した試合を見せてくれたことを期待しています。

私は、早慶戦に4度選手として出場させていただきました。中でも昨年の早慶戦は主将として最後の団体戦であり、何としても伝統ある早慶戦を大成功に導きたいという一心で試合に臨みました。そんな中、パートナーの大芝君と組んで戦ったダブルスや、慶応の光井君と戦った主将戦はいずれも好ゲームで、一年たった今でも当時の様子そのままに鮮明に思い出されます。4年間の集大成として臨んだ最後の早慶戦で最高のプレーができたことを誇りに思いますし、応援してくれた仲間たち、互いに全力を尽くした慶応の諸君には感謝しています。

早慶戦は伝統ある両校の意地と意地とがぶつかり合い、一人一人が決して負けることの許されない緊迫した状況で戦う、リーグやインカレとは違った独特の雰囲気、盛り上がりのある団体戦だと私は思います。その中で時には良きライバル、時には良き友、良き理解者となれるよう、早慶戦を通して、両校互いに良き関係を築いてくれればと思います。

また、早慶戦は現役生諸君が積極的に動きかけ行動することでよりよくなっていくと思います。そのため現役諸君には自分たちの手で、野球やラグビーに負けにくいぐらい自分たちの早慶戦を作り上げてほしいと思います。必ずや今後につながる素晴らしい経験ができることでしょう。最後になりましたが、今大会を運営なさる方々に感謝し、早慶両校の更なる飛躍につながる大会になるように御健闘をお祈り申し上げます。

WASEDA

早慶戦  
に  
寄  
せ  
て

KEIO

ビーナス&セリーナ

# 勝つテニス

ウイリアムズ姉妹の練習ノート

【編】ライオンバード (トニーニンゴコーチ)  
【監】坂井利郎 (元フェドカップ日本代表チーム監督)

加藤清忠 (早稲田大学名誉教授)  
●A5判・208頁 ◆1,890円

ウイリアムズ姉妹は復讐を果たしたビーナスを育てた名コーチが、必ず勝つ練習法を明かす。本気で強くなりたい人、存分にテニスを楽しみたい人に...

▶▶福井 烈プロ推薦!  
(プロチアストンスポーツ所属)



# スポーツ大好き! 子どもを育てる 「62」の方法

一体づくりから  
トップアスリート育成まで—

【編】ルグラン、ディクソン

【監訳】堅物永三 (日本体育大学副学長)  
【監訳】乗松尋道 (四国医療専門学校長)

●A5判・152頁 ◆1,680円

6歳から12歳の子どもの対象に、スポーツを楽しむながら、肉体的にも精神的にもより良く発達するためのトレーニングを、親やコーチ、教師に向けてわかりやすく説明する。



# スポーツ リハビリテーション

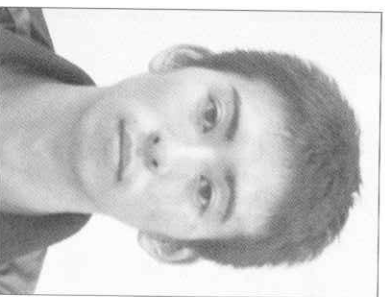
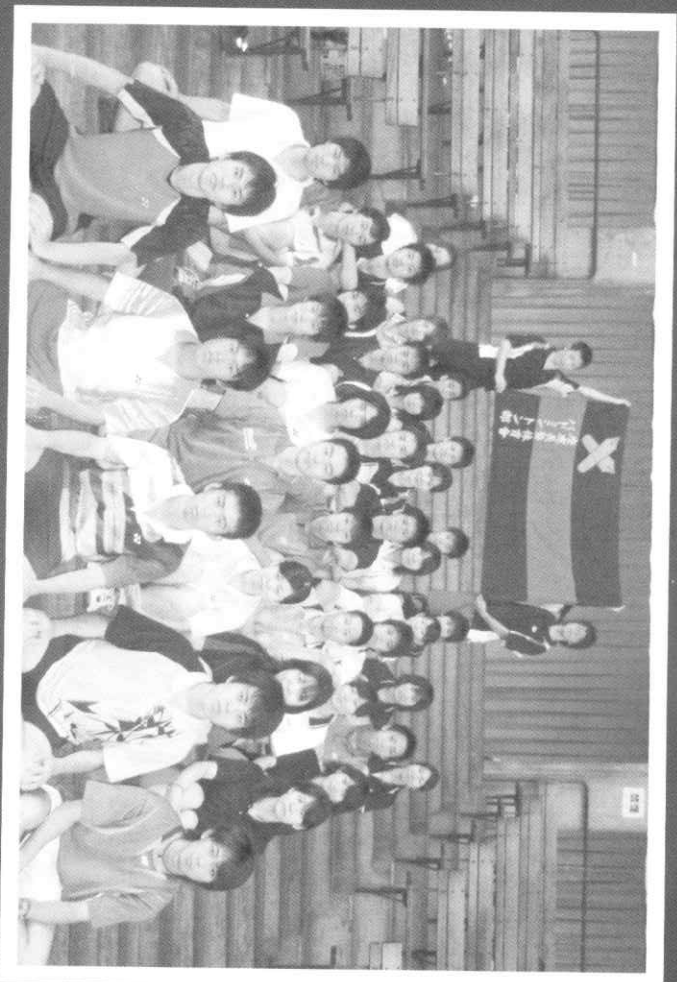


【編】コルト他  
【監訳】守屋秀繁  
●B5判・544頁  
◆7,980円

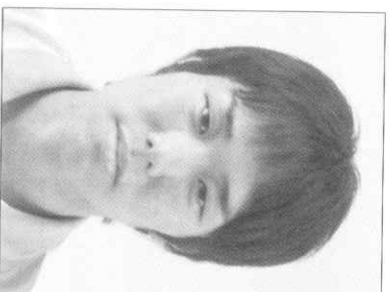
西村書店

102-0071 東京都千代田区富士見2-4-6 www.nishimurashoten.co.jp  
tel:03-3299-7671 fax:03-3299-7622 (価格は税込)

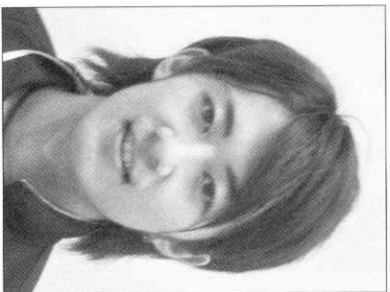
# KEIJO



主将 渋谷 康太  
商 4  
東葛飾 (千葉)  
我が部のイケメンの大黒柱。バドミントンのフオームも綺麗で部員からの信頼も厚いが、私生活では女の子のハートにエースを決められない。...らしい。



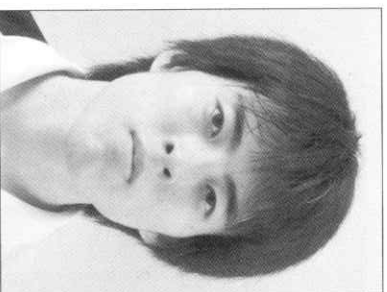
副将 福崎 淳一  
理 4  
高松商業 (香川)  
大魔神や四天王とも言われている。我が部の副将。何でそう言われているのかは聞かないで(笑)トレーニングを日課とするストイックな彼は部員一同(特に女子)からこよなく愛されている!



高橋 慧  
法<sup>4</sup>  
慶應義塾 (神奈川)  
何かとすぐ飽きっぽいけど、最近は強さを求めて日々ウエイトにとり組み肉体改造に励んできた。その鍛えられたスマツッも澤は白舌できる。



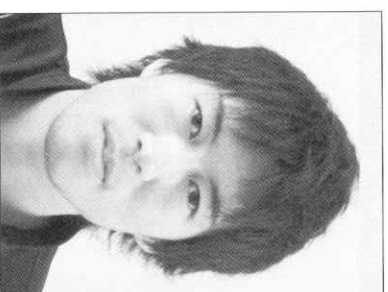
石岡 陽平  
経<sup>4</sup>  
慶應義塾 (神奈川)  
その甘いスマツのため一年生からたくさんの黄色い声を集める彼だが、口の方は達手。理工階段やジャンスタといった「階段」をこよなく愛している。



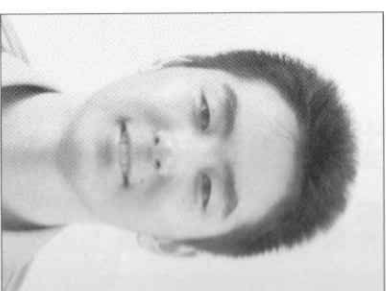
主務 中津 哲彦  
経<sup>4</sup>  
開智 (埼玉)  
フオームやフットワークが華麗な中津さん。そして、毒を吐く時の彼はあんなに種々々々をまどい、相手を華麗に制す。



中村 卓磨  
理<sup>4</sup>  
海城 (東京)  
部員みんなから愛されるタクマロさん。練習中はハーフパンクを巻き上げて機動力向上を計っている。「まー君」「リユージ」などの呼び名を部員につけるがどれもあまり定着しない。



中島 優  
環<sup>4</sup>  
都留 (山梨)  
後輩いじりが大好きな中島さん。そして時折見せる笑顔とハスキーボイスに女子部員だけでなく男子部員も卒倒した。試合中も多くの観客が倒れるだろう。



森本 修介  
環<sup>4</sup>  
日本大学第三 (東京)  
ついに彼が帰ってきた! 帰国後早々の必殺爽やかスマイルはkさんに50回口説かれるよりも威力がある。アメリカで太くなった足と、鍛え上げてきた力でどんなグレイーを見せてくれるのだろうか。



高橋 千怜  
経<sup>4</sup>  
大妻多摩 (東京)  
バドミントンを大学から始めて努力を重ねてきた千怜さんは広報としても役割を果たしている。そんな彼女は現在バドミントンと玉木宏に本気である。



女子主将 中井 舞  
商<sup>4</sup>  
三鷹 (東京)  
女子主将として頑張っている中井さんはカッコイイ私服とキヤッツがトレードマーク。時々たま放たれるミラクルショットは周囲を沸かせる。





松本 悠莉亜  
 攻2  
 慶應義塾女子(東京)  
 この1年でバドミントンの技術と共に、男のような足筋を身に付けたマツチヨ本。そんな彼女は満足なショットが打てると、とても可愛いリアクションをするが筋肉のせいで可愛さが半減してしまう事を嘆いている。



田中 優子  
 商2  
 小石川(東京)  
 改善されたフォームは綺麗で部活中はしつかりしているのに、普段の動きは変だし会話もカミカミなゆうこりん。サーブ後のセクシーな仕草は要チェックのカラオケではキューティーンハニーになるが、応援の時は鬼コーチと化す。



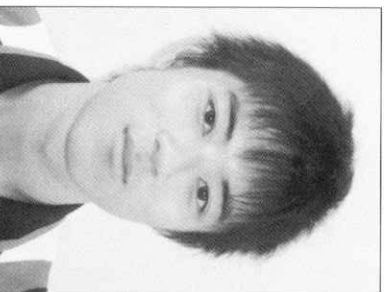
植田 悠  
 環2  
 九州国際大学付属(福岡)  
 男子も驚くスピードでショットを追う表情は真剣そのもので恐れる人もいるらしいが、普段は持ち前の天然っぷりで場を和ませる。



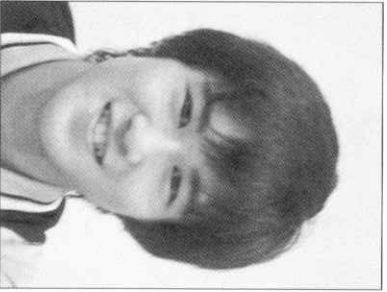
佐保田 恵  
 環2  
 多摩(神奈川)  
 二年生が誇る最終兵器サホダ。小さな身体とは対照的に大容量で、忍耐力、筋力、権力ももりもり詰め込まれている。常に100%フルスロットルで元気いっぱい、夢いっぱいである。



小澤 雄貴  
 文1  
 桐光学園(神奈川)  
 1年で1番真面目で小心者の彼は、メールの返信が誰よりも早く、先輩からの信頼も厚い。色白でまだ華奢だが、先輩からのアドバイスを真摯に受け止める謙虚な彼なら人格の伴ったビッグなプレイヤーになるだろう!



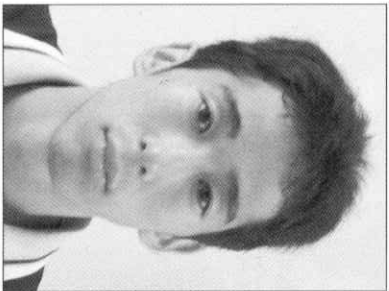
川口 太希  
 文1  
 南山(愛知)  
 皆から可愛がられるイケメン。フォームが綺麗な期待の星だがガニ股。そんな彼は今日も、可愛いTシャツで女性を落とそうと口元を緩ませる。



原 拓也  
 文1  
 七里ガ浜(神奈川)  
 某国から直輸入したサブリメントを使用している彼。笑顔の裏にダークな一面があるのではないかと噂されるが、誰よりも同期思いのいいやつである。



岩橋 俊明  
 商1  
 帯広柏葉(北海道)  
 マイペースで物事を進めていき、バドミントンではフェイントで相手を掻き乱すくせ者。ただ、独特なオーラを持つため先輩からいじられることもしばしば。



鈴木 章伸  
理1  
江戸川学園取手(茨城)  
週7でバドミントン選手を愛している男。そんな彼のメールは意外と可愛く、そのギャップが誤解を生むことも。部内一の足の速さを持つ彼に今後も期待!



三浦 基朝  
理1  
修道(広島)  
ウオーリー製の期待の初心者。カナダから帰国さらにマラチヨになった彼はスポンがパンパンになり、溢れる向上心と共にほち切れた。その調子でユニフォームもほち切れ!



有高 李佐子  
経1  
慶應義塾湘南藤沢(神奈川)  
自称硬派らしいですけれど、やんわり無視してあげてください(笑)きつい練習中にも決して笑顔を絶やさない彼女は、いつも明るい我が部の人気者である。



高崎 友里香  
経1  
慶應義塾女子(東京)  
部を明るくするムードメーカー。周囲に笑顔を振りまきテンションが常にムダに高いが、時折やんちゃ過ぎてS保さんの目が光る。



村尾 麗  
経1  
慶應義塾湘南藤沢(神奈川)  
慶応SFC校からのニューフェイス。幼い頃からバイオリンをやっている彼女はバドミントンでもきつと努力を欠かさないだろう。



岸本 裕紀子  
商1  
普通土学園(東京)  
バド部へ入部するため慶應への入学を決意したという噂からの体育会系。中国のリン・○ンとハグしたことがあり、佐○翔治を下の名前で呼ぶなどの素性には謎が多い。



阿閉 桃子  
総1  
山手学院(神奈川)  
走る事が大好きな阿閉は『今日ランニングありますか?』と必ず聞く。お姉系なチャラいと言われ続けているが、実際のところチャラい。



児島 翠  
薬1  
頌栄女子学院(東京)  
ついに我が部にも薬学部生がやってきた!初心者ながらバドミントンに対する熱意は人一倍。女子イチ長身の彼女の今後の上達に期待も集まる。



監督 五月女 季孝  
Toshitaka Saotome  
昭和60年理工学部卒  
桐朋学園(東京)出身  
野村アセットマネジメント

私の伝説「世の中には様々なプレイヤースタイルの選手たちがいるが、華麗なプレイヤヤーは試合巧者には通用せず、試合巧者は勝負強い選手には敵わない。そんな勝負強い選手が苦手とする相手は最後まで諦めない選手である。」



ヘッド・コーチ 加藤 幸司  
Kouji Kato  
昭和57年法学部卒  
慶應義塾志木(埼玉)出身  
慶應義塾大学体育研究所

バド初心者として入部した当時の慶應は1部リーグに所属。インハイ出場者も多数在籍し、練習中もコートには殆ど入れない。苦酷な境遇にも挫けず、弛まぬ精進を積み重ね、4年時には早慶戦に出場したほどの努力家である。



コーチ 奥出 裕充  
Hiromitsu Okude  
平成5年文学部卒  
保谷(東京)出身  
共同通信社

記者としての人脈の広さは、彼の人望と知りで深みのある人柄が\*拠り所となっているのである。競技の枠を超えた世界の一流プレイヤーとの交流は、彼の目を存分に肥えさせている。後輩達への還元を大いに期待したい。



コーチ 粟 弘樹  
Hiroyuki Tatsumi  
平成6年経済学部卒  
慶應義塾(神奈川)出身  
明治安田生命保険

慶應OBの中では数少ない現役プレイヤー。土日になると、会社の練習を終えてから日吉に現われ、日吉の後は地域の練習に参加するというタフなコーチ。この男に「さすがに動きのスピードが…」なんて言葉は似合わない。



コーチ 清水 聖  
Kiyoshi Shimizu  
平成8年法学部卒  
桐朋学園(東京)出身  
三井不動産

多忙によりなかなか練習指導ができないが、「心は常に日吉にあります！』と頼もしい台詞でコーチを統括してくれている。リーグ戦に駆けつけければ、わずかな時間で選手の特徴を見抜き、核心を突いたアドバイスを送る。



コーチ 辻 典宏  
Norihiro Tsuji  
平成14年総合政策学部卒  
東海(愛知)出身  
トヨタ自動車

田添 (H15卒) と組んだダブルスでインカレに出場した際、2回戦で佐藤翔治/佐々木翔(富士短大)と対戦。実はその時以降、慶應の男子選手はインカレ出場を果たせていない。「早く俺を越えろ！」と後輩達を叱咤激励する。



コーチ 手塚 純平  
Junpei Tezuka  
平成20年法学部卒  
慶應義塾(神奈川)出身  
東京海上日動火災保険

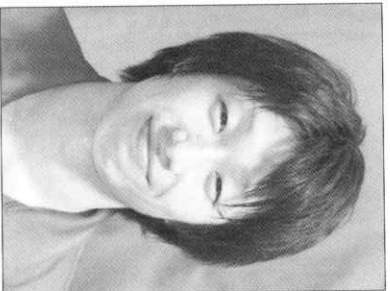
一昨年、主将として抜群のリーダーシップでチームを率い、4部完全優勝3部復帰を実現。早慶の間にどんなに実力差があろうとも、“早稲田に勝つ”という目標こそ慶應の永遠のテーマであることを今のチームに根づかせた。



コーチ 高橋 明子  
Akiko Takahashi  
昭和20年看護医療学部卒  
慶應義塾女子(東京)出身  
慶應義塾大学病院

入部時の女子部員数はなんとゼロ人。フエントング東京都代表の地位を手放し、バドミントン部の再構築に奔走。粉骨碎身の頑張りと持ち前の明るさで幾多の苦難を乗り越えた。現在16名にまで増えた女子チームの功労者。

# WASSEDA



主将 松浦 翔  
スポ科 4  
青森山田 (青森)  
神から授かった笑顔で  
22年間女性を骨抜き  
にしてきた彼。東北、海  
関東に続き来年は意味  
地方をいろいろな勢いで  
制覇しそうな勢いがある。



副将 羽石 直弥  
社学 4  
常総学院 (茨城)  
頭のいいバカ。去年に  
引き続きこの一言で十  
分である。



小松 俊介  
スボ科 4  
新宿 (東京)

ローストチキンに加工される寸前に逃走し関東学連総長にまで上り詰めた男。絶叫マジンだけは全く怖がらない彼の趣味は募金である。



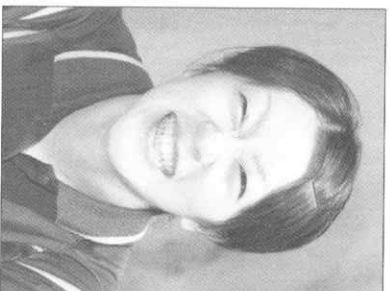
江淵 愛美  
スボ科 4  
高岡西 (富山)

並々ならぬ努力がふくらばぎにあらわれている彼女。「江淵が飲むってさ」コールが入りであり、密かに着信音にしているとかいないとか。



大條 小真姫  
社学 4  
滋賀女子 (滋賀)

関東一頭の切れるセクシー美女。サウスポークから繰り出すテクニクで観客を魅了する。愛媛弁がたまんねーBy部員一同



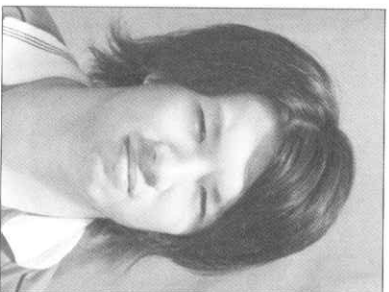
主務 丁塚 真紀  
教育 4

聖ウルスラ英智 (宮城) 敏腕主務にして早稲田のアイドル。フアンクラブ会長につけられたカマ〇〇というあだ名が最上級生であるにも関わらず定着し始めたことが悩みの種である。



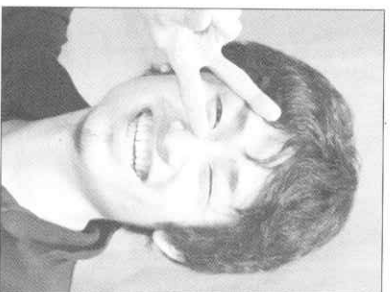
上田 拓馬  
スボ科 3  
埼玉栄 (埼玉)

早稲田一の肉体美を持つ彼。バドミントン界の王子と呼ばれる知名度も高い。サーブを打つ時の左手の小指に注目してほしい。



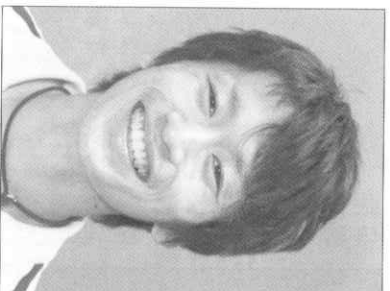
佐々木 啓  
スボ科 3  
埼玉栄 (埼玉)

何事にも抜群のセンスを発揮する彼。練習時間よりスーファミの時間がはるかに長いと思えない。



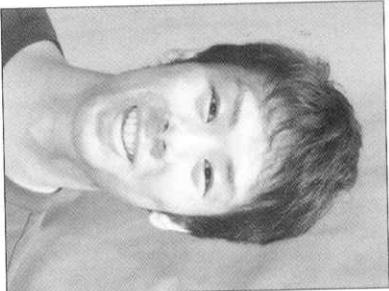
笹木 里司  
スボ科 3  
勝山 (福井)

数々の悪ふざけが早稲田名物となりつつある彼。ぶよぶよのCOMに日々罵声を浴びせる彼の座右の銘は「ウイークエンブナイバー」



西澤 潤  
人科 3  
延暦寺比叡山 (滋賀)

ご存じ慢性金欠病の彼。バイト代の全てを機械に放り込みやつれているとしか思えず、もはや誰にも止められない。



山田 雄一  
教育 3  
関東第一 (東京)

あふれる冒険心がピンサーズと冬服のセンスに表れている彼。今日彼もいたるところからウー



西本 卓太  
スボ科 3  
伊丹北 (兵庫)

食いしん坊兄弟の長男にしてエースの彼は、方程式で四方をペコヤ板に塗まかれて暮らしているらしい。JINROとは冠っても冠れない様である。



木村 唯菜  
スボ科 3  
金沢向陽 (石川)

帰省するたびに強烈な石川弁を大都会に持ち帰ってくる彼女。頻繁に「いーじー」と言うがほとんどの部員はその意味を知らないためどうしたらいいかわからない。



伊野 小葉美  
教育 3  
聖カリスラ実習 (宮城)

ペリカンに近いDNAを持つ彼女。上級生になっても飲み席ではいじらぬ癖けている東北出身のホセである。



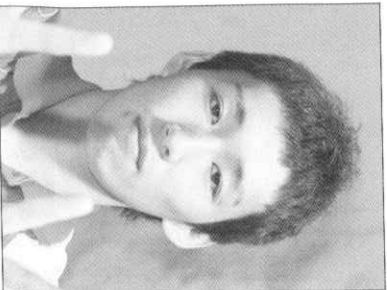
堀川 実穂  
教育 3  
関東第一 (東京)

部員からの信頼が厚い早稲田のお母さんの存在な彼女。半面ジングルスでは無敵を誇り、半面の全国大会開催を祈っている。



藤野 健士  
スボ科 2  
八代東 (熊本)

任意不定のドンカシチヤンゼオン。異体改造を得意としているが結果が出ないカシチのなか、ハコトは理髪も数強中である。



及川 拓人  
スボ科 2  
水沢 (岩手)

見た目はヤンキー、しかし本当は気の小さい男の子。パソコンのパスワードを突破すると楽園が広がっているとのうわさ。



藤井 美太郎  
スボ科 2  
全石川東 (石川)

食いしん坊兄弟の長女。目の前に食べ物があれば誰の口にもする強い志みを感じる。世送りの50%が重量に消える彼女の得意技は自分コ



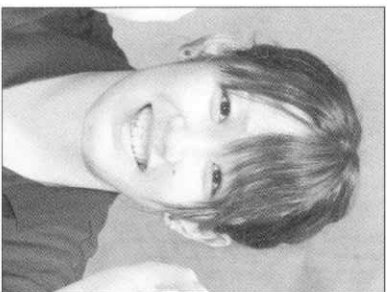
藤田 理恵子  
ヌポ科2  
岡崎城西 (愛知)

最近クリステルを卒業した彼女。たいていデレレしているかイライラしているかのどちらかである。デートヌポットはパイナツプル。



西山 夕美子  
ヌポ科2  
青森山田 (青森)

早稲田大学で最も大脳が小さいと思われる彼女。テフシヨンが上がりすぎると誰もついていくことはできない。「あっ、魚伊三」



片山 佳菜  
ヌポ科2  
高岡西 (富山)

慢性金欠病患者をパートナーに選んでしまった彼女。どこにも連れて行ってもらえないことが最近の悩みである。



山田 早織  
ヌポ科2  
愛知淑徳 (愛知)

今日が誕生日のかわいいらしい女の子。20歳になっても女の子。今日はたたくさん飲ませてね☆

## 祝 早慶定期戦

各種記念イベント調製

マーク・ワッペン・旗・腕章

# オギワラ

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-8-24

早大東門前大隈通り

TEL 03 (3202) 7 8 4 6

FAX 03 (5273) 8 2 8 5



村上 俊  
又ボ科1  
延暦寺比叡山 (滋賀)

ある先輩の2倍の足の長さを誇る彼。いつもボーっとしているが、実はみんなに披露するネタを常に考え続けているらしい。



原田 和香  
社学1  
自由ヶ丘 (徳島)

真面目な印象は完全に見かけ押しな置。パドミントンも恋愛もオールドファッションでがんばります！！



岩崎 龍馬  
社学1  
八代東 (熊本)

常に低姿勢な彼。イメチェンを目指してかけたパーマはウケ狙いとしか思えない。今年の目標は脱童顔。



玉木 裕里子  
又ボ科1  
聖ウルスラ英智 (宮城)

早稲田期待の大物ルーソーだが、時折見せる奇行はウルスラの証である。髪型には尋常ではないこだわりを持っている。



土谷 美帆  
又ボ科1  
金沢向陽 (石川)

食いしん坊兄妹の次女。卒業された○芝さんのタンクを譲り受けた彼女の将来は雪見大福である。